

発行日 平成 23 年 12 月 14 日

「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」フォーラムニュース 54号

発行：「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」 広報委員会

〒 105-0003 東京都港区西新橋 1-14-7 山形ビル3階

TEL 03 (3504) 9800 FAX 03(5157) 3180

E-Mail esm-hq@eco-texj.co.jp

師走の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

フォーラムニュース 54 号をお届けします。

11 月 28 日月曜 第 49 回セミナーが開催されました

近藤事務局から開会の挨拶に続き、来日中のドイツ 3p コンソーシアム CEO のウィリー・ボイト氏が講演をおこないました。



「製造業者、ブランド、小売業者のための 2012 年の挑戦」 ウィリー・ボイト氏

現在、欧米を初め世界各国の政府及び消費者団体は食品をはじめ、衣料、玩具、エレクトロニクスなどに含まれる化学薬品や物質に関して、制限強化を進めている。そして、多くの団体が製造業者に対して使用制限物質のリストを提出させ、安全に対する宣言書に署名させることを進めている。しかし企業は制限物質の知識の無いにも関わらず、販売機会を失わないために署名をしているのが現実である。

一方、最終製品に禁止物質が残留していないかの検査を行っている。これには多くのコストがかかり、REACH や CPSIA では毎年新たな禁止物質が追加されているため再検査の必要性もある。小売店や製造業者が検査を行うのであれば、多くのコストがかかり現実的ではない。

スイス最大の小売りチェーンであるミグロ社では年間 5-6 千万着のアパレルと家庭用繊維製品が海外 150 カ所から調達され、その先には世界 2600 箇所の製造企業が含まれている。ココでの製品は明確に提議された環境基準に従って製造され、糸段階から最終製品に

至るまでクリーンであることが保証されている。同様に日本の大手小売業者であるイオンも中国、マレーシア対などでも販売されている、ここには世界の 2000 以上の生産企業から供給されているが、それらは我々のシステムにより健康と安全性の社会的責任を果たしている。

過激な環境 NGO として有名なグリーンピースは大手企業と協定を結んでいる。H&M、アディダス、ピューマなどは以前から対策を図っていた。最近日本のユニクロがサインをしている。グリーンピースは生産国の環境を良くしたいようだ。たとえば染色企業のある地域の河川は汚染されているが、インドでは 700 もの工場が操業停止となった。これらの地域がそのままの汚染を続けていくことはできない、また、世界で最大の環境問題は水である。グリーンピースは過激な面のあることで知られているが、過激なものは実際には進まない。ルールに則った改善であれば大企業も合意するだろう。



続いてお招きしたフェアトレードカンパニー株式会社 常務取締役 胤森なお子 氏からサブタイトルを「人と地球を中心とした社会をつくる」と題し、次のようなご講演をいただきました。

「フェアトレードの拡大とピープル・ツリーの歩み」 胤森なお子 氏



ピープル・ツリーは発展途上国の貧困と環境を守る NGO として 1991 年に発足したグローバル・ヴィレッジが前身であり、95 年にフェアトレードカンパニー株式会社を設立、2000 年に直営店と雑誌名をピープル・ツリーとした。現在年商は約 8 億円、40 名の社員の企業である。

ピープル・ツリーはアジア・アフリカ・中南米の 10 ヶ国、40 団体と取引しており、衣料、雑貨、食料などの商品開発、輸入、販売を行っている。消費者に対しては商品を購入することでそれら発展途上国とどのような関連があるかを知ってもらう事が大切で、適正な価格で買ってもらい、適正な賃金を支払うことを啓蒙している。

バングラデシュには欧米からのアパレルの委託加工が多いがコストセーブのため、作業環境は劣悪なところが多い。建築基準以下の建物で崩壊事故を起こし多くの作業者が死亡する事故なども起きていた。このように商品の背景には労働者からの搾取などアンフェアな実態のあることを知ったのがフェアトレードを始めるきっかけとなっている。農業についても毎年農薬を買わなければならない方法では借金がかさみ自殺者も多い。このためフェアトレードではなるべくオーガニックコットンを使うようにしている。

こういった植民地時代の延長のようなやり方の実態を消費者にも知ってもらうような活動を行っている。フェアトレード規程に合格した商品には認証マークを添付して販売している。

当初、食品や手芸品を取り扱っていたが、チョコレートとコーヒーを扱うことで一般に知られるようになった。衣服や手工芸品に関しては食品と異なり工程が長いため、団体の信頼性を認証することにした。アパレル製品などには認証マークは付けていない。

現在欧米でのフェアトレードラベルは80%の商品に添付されているが、日本でのフェアトレードに関する認知度は17%程度、市場規模もイオンの商品など一部であり販売金額も100億円未満である。今後、消費者への啓蒙キャンペーンなどを進め、メディアにも取り上げてもらうことで広げていきたいと思っている。

お二人のご講演ののち、2011年を振り返りながら参加の皆様の各種の報告と意見交換が行われ、引き続き懇親会が開催されました。

<お知らせ>

2012年前半の活動予定

- ・ 次回 第50回セミナー 2012年1月19日木曜・14:00～
- ・ 第10回 定例総会 2012年2月23日木曜・16:00～
- ・ 第10回 国際フォーラムセミナー／会場 両国・江戸東京博物館会議室
2012年5月22日火曜・13:30～

編集後記

多くの人たちにとって記憶に残る一年だったと思いますが、早くも歳の暮れを迎えます。新年は良い年になりますことをお祈り申し上げます。